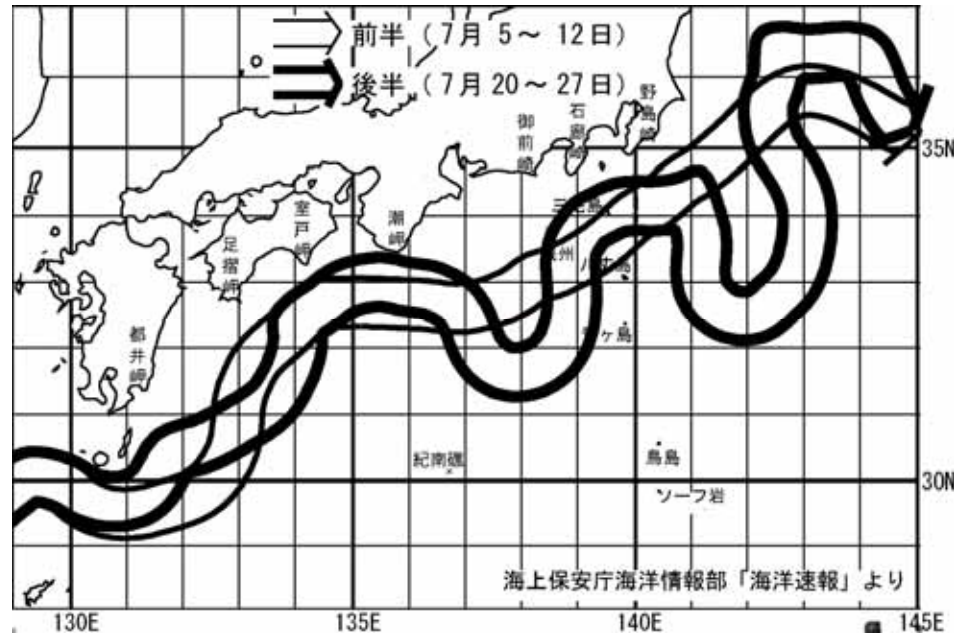


# 漁海況月報

平成27年 7月 1日

No. 7 ~ 7月31日

静岡県水産技術研究所  
(電話 054-627-1815)  
静岡県水産術研究所 伊豆分場  
(電話 0558-22-0835)



7月定地水温の旬平均値( ) (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上旬	21.3	20.3	20.3	19.8	20.4	20.7	20.5
	-0.8	-1.0	-1.3	-3.1	-2.4	-2.0	-2.1
中旬	22.4	21.2	20.4	24.2	23.9	22.8	23.0
	-0.6	-0.6	-1.4	0.3	-0.2	-1.1	-0.5
下旬	23.9	22.5	22.6	26.4	26.4	26.1	26.3
	-0.4	-0.2	-0.4	1.4	1.6	1.3	1.5
月	22.6	21.4	21.3	23.6	23.7	23.4	23.3
	-0.6	-0.6	-0.9	-0.4	-0.3	-0.4	-0.4

## [ 黒潮流路 ]

前半の黒潮は、遠州灘沖を北東に進んだ後、八丈島と三宅島の間を通過して房総半島沖へ流れた。後半は小蛇行が東進したため、遠州灘沖で32°N付近まで南下し、伊豆諸島の西側を北上して三宅島の南を通過した。その後、伊豆諸島の東側で再び蛇行し、房総半島沖を離岸して北上した。

## [ 県下沿岸域 ]

上旬は、相模湾側で「やや低め」、駿河湾では「かなり低め」～「低め」であった。中旬は相模湾側では引き続き「やや低め」であったが、駿河湾では「やや低め」～「平年並」であった。下旬は、相模湾側では「平年並」、駿河湾では「やや高め」～「高め」であった。

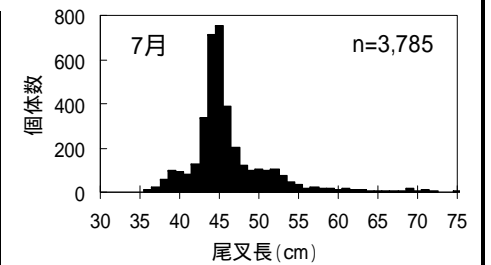
## [ 竿釣カツオ ]

7月の県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海カツオ(近海船+沿岸船)水揚量は155トンで、前年同期の167%であった。水揚げの全てが沿岸船によるもので、近海船の水揚げはなかった。魚価は262円/kgで前年同期を下回った。

漁場は31~33°N、139~140°Eの青ヶ島やハロースを中心とした伊豆諸島海域で、銘柄「小」(尾叉長45cmモード)が主体であった。

竿釣り(近海+沿岸船)カツオ水揚量(県内主要5港)

期間	水揚量(トン)	水揚隻数	平均水揚量/隻(トン)	平均単価(円/kg)
27年7月上旬	53	10	5.3	241
中旬	30	6	5.1	275
下旬	72	15	4.8	272
27年7月計	155	31	5.0	262
26年7月計	93	43	2.2	395
25年7月計	285	66	4.3	267



御前崎港における測定結果

## [ 定量網 ]

伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の水揚量は239トンで前年の同漁場の水揚量(427トン)の0.56倍であった。また、1か統あたりの水揚量は34.1トンで前年(61トン)の0.56倍、平年(昭和57~平成26年の平均42.2トン)の0.81倍であった。

魚種別の水揚量は、さば類、カタクチイワシ、シイラの順に多かった。

7か統のうち、さば類は北川漁場が30%、次いで古網漁場が25%を占めた。カタクチイワシは伊豆山漁場が54%、次いで北川漁場が15%を占めた。シイラは古網漁場が34%、次いで北川漁場が23%を占めた。ブリは富戸漁場が33%、次いで古網漁場が19%を占めた。マルソウダは北川漁場が41%、次いで谷津漁場が39%を占めた。

ブリは銘柄「わらさ」および「いなだ」が主体で、それぞれブリ全水揚量の49%を占めた。さば類は銘柄「ゴマサバ」が主体で、さば類全水揚量の84%を占めた。

漁場別の水揚量では、北川漁場が71.2トン(ゴマサバ、マイワシ、シイラなど)、伊豆山漁場が52トン(カタクチイワシ、ゴマサバ、シイラなど)、古網漁場が40.6トン(ゴマサバ、シイラ、カタクチイワシなど)の順に多かった。

<参考表> 多獲された魚種の漁獲量と主な漁場

魚種	漁獲量(トン)	前年比	平年比	主な漁場
さば類	56.7	0.4	3.1	北川、古網、富戸
カタクチイワシ	50.7	0.8	2.0	伊豆山、北川
シイラ	35.3	0.4	2.5	古網、北川
ブリ	17.7	0.9	1.0	富戸、古網
マルソウダ	16.9	34.3	10.2	北川、谷津

**[サバたもすくい棒受網]**

小川港にはゴマサバが485トン(前年同月比85%)水揚げされた。1隻あたり水揚量は24.2トン(前年同月比108%)であった。1kgあたり平均単価は87円で前月(84円)を上回り、前年同月(91円)を下回った。マサバの水揚げは無かった。

ゴマサバは28cmにモードを持つ2歳魚主体であり、上、中旬は三宅、下旬は銭洲に漁場が形成された。

小川港 さば類(たもすくい・棒受網漁業)水揚量

期 間	水揚量(ト)		水揚 日数	水揚 隻数	水揚/隻(ト)		単価(円/kg)		漁 場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
27年7月上旬	-	224	3	8	-	28.0	-	88	三宅
中旬	-	163	2	6	-	27.1	-	84	三宅
下旬	-	98	3	6	-	16.3	-	90	銭洲
27年7月計	-	485	8	20	-	24.2	-	87	三宅、銭洲
26年7月	-	586	11	26	-	22.5	-	91	三宅、三宅、銭洲
25年7月	0	845	14	35	0	24.1	105	82	銭洲、三宅、三宅

\* 水揚量は、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。  
\* 表中の「0」は漁獲がごく僅かであったことを示す。

**[シラス船曳網]**

1日1か統当りの水揚量は、駿河湾(静岡、吉田)が100kg、遠州灘(御前崎、福田、舞阪、新居)が150kgであった。主要6港平均の1日1か統当りの水揚量は115kgと前年同期331kgの34.7%、前年同期(過去5か年平均:441kg)の26.1%で前年同期及び前年同期を大きく下回った。また、総水揚量は30.8トンで前年同期(445.1トン)の6.9%、前年同期(1,064.6トン)の2.9%で前年同期及び前年同期を大きく下回った。平均単価は714円/kgで前年同期(545円/kg)及び前年同期(701円/kg)を上回った。

シラス水揚量(主要6港)

漁 港	水揚量 (ト)	延日数	延統数	平均漁獲量(kg/統)	平均単価(円/kg)
新 居	1.2	2	21	57	677
舞 阪	4.1	2	21	194	737
福 田	4.9	1	23	215	631
御前崎	1.7	2	14	118	388
吉 田	10.2	6	102	100	682
静 岡	8.8	4	87	101	855
平成27年7月計	30.8	17	268	115	714
平成26年7月計	445.1	75	1,343	331	545
平成25年7月計	142.8	66	1,363	104	1,042

\* 各港の数値は四捨五入しているため、各港合計と月計の値は一致しない場合がある。  
\* 前年同期:過去5か年(平成22~26年)平均値

**[まき網]**

マイワシの水揚げは小川港で6.3トンと前年同期(6.2トン)の100.2%、沼津港は21.7トンで前年同期(29.1トン)の74.6%であった。一方、カタクチイワシの水揚げは小川港で38.3トン、沼津港では0.0トン、相模湾側の伊東港では10.8トンであった。

なお、伊豆東岸定置網8か統のマイワシは15.3トン(前年同期68.4トン)、カタクチイワシは51.6トン(前年同期83.0トン)の水揚げがあった。

\* 前年同期:過去5か年(平成22~26年)平均値

**[調査船駿河丸の動向]**

7月2日 ~ 7月3日	サクラエビ産卵調査(IKMT)	(2日間)
7月6日 ~ 7月8日	地先定線観測調査	(3日間)
7月9日 ~ 7月10日	いわし類卵稚仔分布調査 (ニューストーン)	(2日間)
7月13日 ~ 7月14日	ふく稚魚調査(TBCネット)	(2日間)
7月21日 ~ 7月23日	サクラエビ産卵調査(IKMT)	(3日間)
7月29日 ~ 7月30日	サクラエビ調査(カイト式ネット)	(2日間)

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは..... <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは..... <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星NOAAの海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

